



細長い角柱状に作り替えられた木簡

二条大路木簡の中には、二次的に整形して長さ8cm強、幅・厚さとも5mm程という、細長い角柱状にした木簡がいくつか含まれている。ここでそのうちの三点を紹介する（すべてこれまで報告されていないものである）。いずれも文字は二次的整形によって欠損している。ほぼ同形であることから、何らかの規格に基づいて作られたとみられる。これらの木簡の用途については、算木ではないかとの推測も出されており（本誌掲載の鈴木景二論文参照）、興味深いところである。

(1) □ 物部牛養 □ 82×5×6 011

(2) . □ □ 83×5×5 011

(3) □ 87×8×8 011

(1)はSD五三二〇、(2)(3)はSD五三〇〇からの出土で、いずれも二条大路の北側路肩に掘られた濠状遺構

(渡辺見宏)